

## 感染症情報 2月18日～24日

府下小児科199医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1,404例(堺市	86例)
②溶連菌感染症	510例(堺市	69例)
③RSウイルス感染症	172例(堺市	11例)
④伝染性紅斑	83例(堺市	8例)
⑤咽頭結膜熱	75例(堺市	5例)

府下インフルエンザ定点302医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 1,961例(堺市 238例)

感染症報告数は前週比19.9%増の2,412件であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、RSウイルス感染症、伝染性紅斑、咽頭結膜熱の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週比19%増、堺市も同19%増であった。溶連菌感染症は府下で44%増、堺市で68%増であった。RSウイルス感染症は府下で9%増、堺市で8例→11例であった。伝染性紅斑が府下で34%増、堺市で5例→8例となった。咽頭結膜熱が府下で12%減、堺市では6例→5例であった。

インフルエンザが府下で前週2,803例→今回1,961例となった。30%減で定点当たりの報告数は9.28→6.49となり、大阪府全ブロックで警報レベル終息基準値の10.00を下回った。堺市では前週354例→今回238例となった(33%減)。

麻疹の報告が府下で今回14例あり(堺市で2例あり)。感染拡大が止まらない。麻疹の年始からの府内累計報告数は96例となった。風疹も府下で同12例あった(堺市はなし)。風疹の府内累計報告数は60例となった。